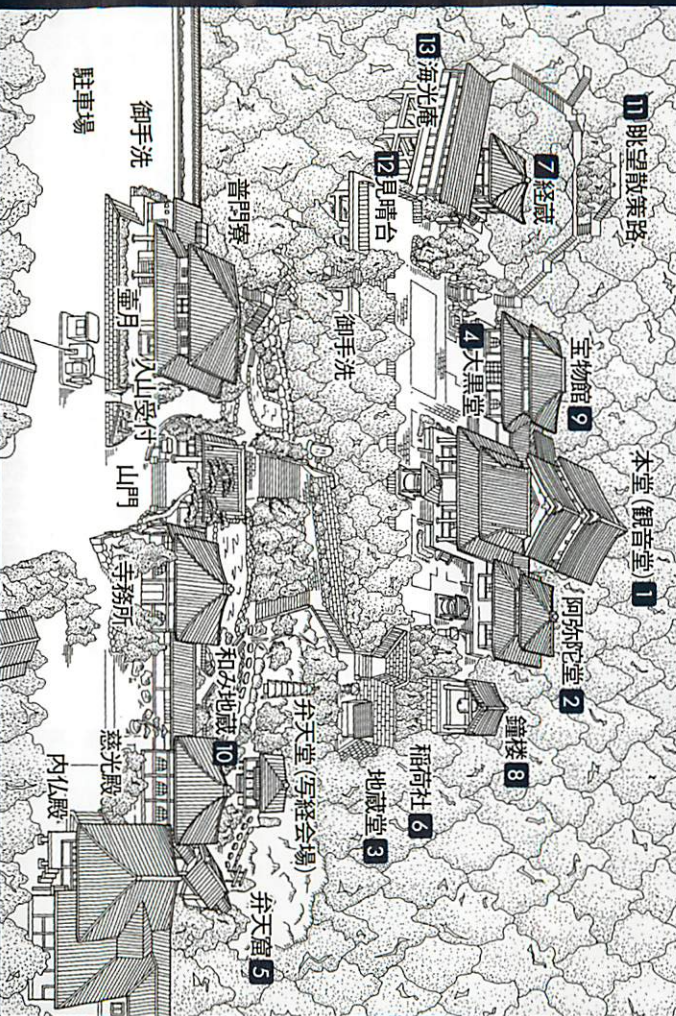


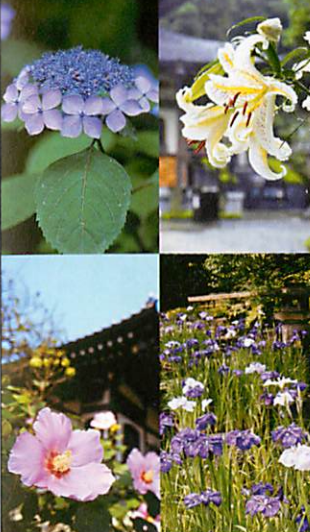


WWW.HASEDERA.JP

花と眺望の寺 長谷寺花だより

春

- 桜(さくら)
- 藤(ふじ)
- 躑躅(つづし)
- 牡丹(ぼたん)
- 海芋(かいよう)
- 山吹(やまぶき)
- 海棠(かいどう)
- 海菜(かいそう)
- 大手毬(おでまり)
- 石楠花(しゃくなげ)
- 小手毬(こでまり)
- 金糸梅(きんぱい)
- 白木蓮(はくもくれん)
- 辛夷(しんぎ)
- 桃(もも)
- 海老根(えびね)
- 三寸菖蒲(さんそうあやめ)
- 馬酔木(あせび)
- 射干(しゃが)
- 五月(ごき)
- 山野草(さんやそう)



夏

- 紫陽花(あじさい)
- 花菖蒲(はなしょうぶ)
- 百日紅(ひゃくしやうべい)
- 芙蓉(ふよう)
- 百合(ゆり)
- 凌霄花(れいそうか)
- 岩煙草(いわたばこ)
- 木槿(もくげ)
- 句薔茉莉(くせんまり)
- 山野草(さんやそう)



秋

- 萩(はぎ)
- 桔梗(ききょう)
- 秋明菊(しやうめいぎく)
- 彼岸花(ひがなはな)
- 十月桜(じゅうがさくら)
- 杜鵑草(ほととぎす)
- 石路(つわぶき)
- 紅葉(もみぢ)
- 山野草(さんやそう)



冬

- 臘梅(ろうばい)
- 万作(まんさく)
- 水仙(すいせん)
- 福寿草(ふくじゆそう)
- 椿(つばき)
- 木瓜(ぼけ)
- 梅(うめ)
- 山茶花(さんしか)
- 山茶黄(さんしやう)



ホームページにて定期的に開花情報を紹介しております

年中行事

こちらの行事はどなたでも参加できます

■開門時間
夏時間(三月〜九月) 午前八時〜午後五時(閉山午後五時半)
冬時間(十月〜二月) 午前八時〜午後四時半(閉山午後五時)

■入山料
一般 大人:三〇〇円、小学生:一〇〇円
団体(三十名以上) 大人:二五〇円、小学生:五〇円

■宝物館
入場料 大人(中学生以上)一〇〇円、小学生以下無料
開館時間 午前九時〜午後四時
休館日 毎週火曜(臨時休館有)

■写経 写仏のご案内
受付時間 毎日午前九時〜午後二時
写経 写仏(用紙 一部、一〇〇〇円(入山料要別途))

■各種祈願・供養のご案内
観音堂にて受け付けております

■駐車場(山門手前左側)
普通車 三〇分 三〇〇円
大型車 三〇分 一〇〇円

坂東第四番札所 長谷観音
宗教法人 **長谷寺**
〒二四八-〇〇六
鎌倉市長谷三-一-二
tel. 〇四六-七二-二一六三〇〇
fax 〇四六-七二-二一六三〇三
www.hasedera.jp

お食事処 **海老庵**
(長谷寺境内)
窓辺に広がる鎌倉の海をパノラマに、憩いの一時をお過ごしください。
■営業時間
午前十時〜午後四時

長谷寺
由比ヶ浜

鎌倉 長谷寺
GREAT KANNON KAMAKURA HASEDERA



鎌倉長谷寺。
正式には、海光山慈照院長谷寺と号します。
往古より「長谷観音」の名で親しまれる当山は、奈良時代の天平八年（七三六）開創を伝え、寺伝に曰く、聖武天皇の御代より勅願所と定められた、鎌倉有数の古刹であります。
本尊の十一面観音菩薩像は像高三丈三寸（九・一八m）にも及ぶ本邦最大級の木彫仏で、東国を代表する観音霊場の象徴でもあります。
伝世する寺宝により鎌倉時代には一山としての寺観が整っていたとみられ、同じ頃の成立と伝わる、坂東三十三所観音霊場の第四番札所に定められた当山は、諸方からの篤い帰依によりその法灯を今の世に伝えております。
なお、観音山のすそのから中腹にかけて広がる境内は、四季を通じて花木が鮮やかな彩りを添え、また、遠く相模湾が臨まれる眺望は、鎌倉随一とも賞されます。

本堂（観音堂）①



本尊である十一面観世音菩薩像について、当山の伝える縁起によれば、養老五年（七二二）、大和（奈良県）長谷寺の開山である徳道上人の本願に基づき、稽文會、稽首勲と名乗る二人の仏師（不空羼索観音と地藏菩薩の応化身）により楠の巨大な霊木から二体の観音像が三日三晩にして造顕されたといわれます。そのうちの一体が大和長谷寺の本尊となり、残る一体は有縁の地における衆生済度の誓願が込められ、開眼供養を修した行基菩薩によって、海中へ奉じられました。
その後、天平八年（七三六）に至り、尊像は相模国の長井浦（横須賀市長井）の洋上に忽然と顕れ、その旨を受けた大和長谷寺の開基藤原房前（藤原鎌足の孫）によって尊像は鎌倉へ遷座され、当山開創の礎となりました。錫杖を右手に執り、岩座（金剛宝盤石）に立つ尊容は長谷寺に祀られる十一面観音像特有の姿として「長谷寺式」と呼ばれます。

阿弥陀堂②

長谷誓願寺（現亡）の旧本尊という由緒を持つ当山の阿弥陀如来坐像は、伝承によれば鎌倉幕府初代將軍源頼朝公の厄災消除を祈願し造立された尊像であるといわれ、後年「厄除阿弥陀」として諸方からの信仰をあつめてまいりました。上品上生の印相を示す丈六の阿弥陀像は鎌倉でも稀有な存在といえ、鎌倉六阿弥陀のひとつにも数えられます。



地藏堂③

観音信仰にならび、日本における庶民信仰の代表的なひとつが地藏信仰であります。
当山では観音堂内に祀られていた「延命地藏尊」（現宝物館収蔵）に加え、「福壽地藏尊」を祀る地藏堂、および周囲の千体地藏尊をもつて地藏菩薩の霊域とし、諸霊の供養とさせていたいております。

大黒堂④

当山伝世の大黒天像は、応永十九年（一四二二）の銘をもつ神奈川県でも最古の尊像として、現在は宝物館に安置されております。
これに代わり、堂内には「出世開運授け大黒天」や「さわり大黒」が祀られ、鎌倉・江の島七福神巡りの一つとしてご参拝の方々に親しまれております。

弁天堂・弁天窟⑤

寺伝によれば当山の弁財天像は、弘法大師が廻国修行の折、当山の岩窟に参籠し感得して自ら刻まれた尊像といわれ、江戸時代には「出世弁財天」の名で世に知られておりました。
現在その尊像は宝物館に収蔵されますが、代わりに、弁天窟の壁面には、弁財天とその眷属である十六童子が刻出されております。



稲荷社（かきがら稲荷）⑥

観音像の渡海縁起にまつわる伝承によると、海に漂う観音像は、尊体に付着した「かきがら」の導きにより当地へ流れ着いたと伝えられます。
祭神は当初「荒神」でありましたが、後年、その由緒をもつて稲荷社として再興された当社は、観音像の漂着した六月十八日を御縁日と定めます。

経蔵（輪蔵）⑦

内部に回転式の書架を備える経蔵を「輪蔵（りんぞう）」と呼びます。なかには「一切経大蔵経」が収められており、書架を一回転させることで、一切経をすべて読誦した功德が得られるといわれます。
なお、堂内には、皆様書き終えた写経も、末永く納められます。

※書架は観音御縁日（毎月十八日・正月三ヶ日のみ回すことができます）

鐘楼（梵鐘）⑧

当山の古鐘は文永元年（一二六四）の銘を持ち、鎌倉でも常楽寺、建長寺に次ぎ三番目に古い梵鐘です。また、「長谷寺」の寺号が確認できる当山最古の什宝でもあるため、宝物館に移管しました（常設展示中）。
現在の梵鐘は昭和五十九年に新鑄されたもので、歌人佐佐木幸綱の短歌が寄せられております。



宝物館⑨

明治年間に開設された「宝物陳列所」を前身とし、当山に伝世する什宝類を一堂に集め展示公開しております。また、参考図書室として「潮音文庫」（一般利用は不可）も併設され、鎌倉でも数少ない寺院系博物館（テンブル・ミュージアム）として文化財の保護と研究にも努めております。なお、毎年秋季には神奈川県指定文化財である「長谷寺縁起絵巻」を一般公開いたします。

主な文化財

◎国重文：梵鐘・十一面観音懸仏（六面）
□県指定：鰐口・長谷寺縁起絵巻（二巻本）
△市指定：板碑（二基）・観音三十三応現身像（三三軀）
〔定期刊行物〕鎌倉文化研究会機関誌「鎌倉」（毎年二回刊行）

その他みどころ

■文学碑
大野伴陸（万木）句碑
高浜虚子句碑（石造聖観音）
久米正雄胸像
高山樗牛住居碑
■彫刻・建築
石造釈迦如来坐像并四天王像
仏足石
ふれ愛観音
和み地藏⑩
良緑地藏
一本造木魚（本邦最大）
薬医門
ほか

眺望散策路⑪ 見晴台⑫

当山は、鎌倉八景のうち「長谷の晩鐘」と謳われた景勝地でもあり、その眺望は、由比ヶ浜はもとより、遠く三浦半島や相模湾をも一望できます。
また、観音山に広がる眺望散策路は、梅雨を迎える頃には「あじさいの径（こみち）」となり、四〇種類を超える紫陽花の競演をお楽しみいただけます。

